



### 学園花の村機関紙第86号

2015年8月3日(月)

編集兼発行人 松井道夫

TEL (0537) 24-0101

FAX 24-0242

F 436-0079

〒337-0655

## 世界保健機関(WHO)からの

### 警告とTPP

「学園花の村」事務局長 藤本 将

現在TPPが大詰めを迎えているが今回「食の安全性」と米の価格の点から触れてみたい。

#### 1. WHOが除草剤の発がん性を警告

今年の3月20日、国連の世界保健機関の国際がん研究機構IARCは除草剤ラウンドアップの発がん性を公表した。

現在日本人の死因の第一はガンでその比率は29.5%とアメリカの22.8%と比較しても高く、先進国中でもトップである。

#### 2. 除草剤に依存する農業

除草剤は日本農業では広範に使われており特に稲作において除草剤への依存度が大きく慣行農法では除草剤抜きには考えられない。除草剤の導入により過酷な田の草取りの重労働から解放された生産者のメリットは大きい。

#### 3. 除草剤を使わない米作り：布マルチ農法

「学園花の村」は有機農法を旨とする市民グループである。米作りにおいても、「学園花の村」の理論的指導者であり、鳥取大学名誉教授である津野幸人先生の考案による水稲布マルチ直播栽培に取り組んでいる。

光陽の里代表者の野田芳宏さんもその先駆者のひとりである。また里山倶楽部も今年から取り組みを開始した。俗にお布田農法と言われるこの方法は二枚のわた製の布の間に初を入れ、それをロール状にし、田植えはそれを引いていくだけ。ヒエなどの雑草を綿製の布がシャットアウトする仕組みである。除草剤は一切使わない。(花の村便り 85号 27/6 発行参照)

水管理がしっかりできる田圃が必要とされるが、最近圃場整備が進み、広範に導入することが可能となってきた。

#### 4. 米の価格

最近私は300CC入りのペットボトルに約1合の米を入れたものを持ち歩いている。1合の米は約3分の2の容量を占める。日本人1日分の米の消費量である。そして会う人ごとに問いかけている。この米の生産者価格はいくらだと思いませんか？

答えは27円である。日本人の米消費量は60キロ(1俵)

生産者価格は1俵1万円であるから1/365=27円となる。

この300CC入りのジュースやお茶は自販機では1本130円です。売られている。実にその1/5である。半年もかけて作ったコメの値段がジュースの2割しかないというのはあまりにも生産者を馬鹿にした話ではないか。私は悲憤慷慨している。

#### 5. TPPと危険な農産物輸入の懸念

米国の圧力により対応を迫られているTPPはコメ余り状態にある日本にさらなる値下げ圧力をかけるものであり、また除草剤を使用した危険な農産物の輸入を押し付けられる懸念がある。

#### 6. 国民的食料である米の安全性確保と生産コストの保証

生産者は1俵1万円では生産意欲は湧かない。しかし1俵2万5千円になるとそこそこ手元に残る。先のジュースの例からも消費者も余力を持って負担可能である。また40兆円にものぼる医療費負担や50兆円をこすGDP(国民総生産)からして負担できないものではない。

TPPにより除草剤の基準の緩やかなアメリカの米がさらに入ってくると日本人の生命は脅かされる。食の安全はコスト負担を伴うものであるから生産者と消費者の合意が必要である。国民的な議論を期待したい。